



■特集

善光寺留学僧育英会 第三十回記念交歓会

横浜善光寺留学僧育英会は、善光寺二世中興大圓武志大和尚によって昭和五十九年に創設され今年三十回の節目を迎えました。

これを記念した「第三十回記念交歓会」が五月二十八日午後二時から釈迦殿で開かれ、参集した有縁の方々や育英生ら一同で大圓武志大和尚に報恩の誠を捧げ育英会の発展に向け決意を新たにしました。

記念交歓会では、育英会名誉顧問の東香山大乗寺山主・東隆眞老師による基調講演。三十回生を含む十四人の育英生による座談会などが行われ、育英会を創設した大圓武志大和尚に思いを巡らせました。



基調講演で東老師は、育英会が設立されて間もない頃を振り返り、「老和尚から、『育英会は自己満足だ、売名行為だと足を引っ張る人たちがいて、嫌気が差した』と相談を受けたが、『誰が何と言おうとも止めてはいけない、私もできる限りの応援する』と励ましました」と、エピソードを紹介し、「一寺院でこのような快挙を企て、継続しているところはほかにない」と語り、駒澤大学で共に学んだ学友である大圓和尚を讃えました。

続いて行われた育英生による座談会には、十四人が登壇、母国での体験や育英生として派遣された各国での経験を語り合った。

この中で、現在は南カリフォルニア大学で准教授を務めているウィリアム・ダンカンさん（第十四回生）は、「黒田老師は、エネルギーに満ちた方でした。自分だけの道を発見すること、



第三十回育英生

右：肖越氏

左：サンヴィド・マルタ氏



大きく前に出ることを教えていただきました。」
と話し、大圓大和尚の支援に謝意を示しながら、
遺風を偲びました。

現・育英会理事長の黒田博志住職は、座談会
後の挨拶で、「第三十回生を含め、留学僧育英
生は一三二名を数えます。本日は、育成生の皆
様やご支援を頂いている皆様と共に、初代理事
長である師父に感謝報恩の誠を捧げることがで
きましたことを心より感謝申し上げます。中国
の古典に『一年先を見る者は花を育てる。十年
先を見る者は樹を育てる。百年先を見る者は人
を育てる』とあります。不肖ながら師父の理念
を継承し、百年先を見据え、仏法に基づく人材
育成に精進して参る所存です」と謝辞を述べま
した。

また、挨拶の中で黒田住職は、第三十回を記
念してまとめた冊子『法の華は人によりて開く』
が刊行されたことを報告しました。

